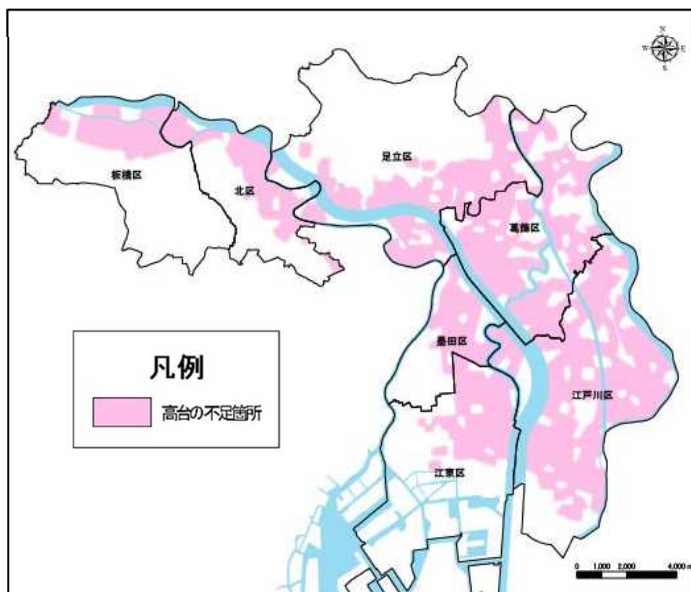


# 今後の高台まちづくりの検討の進め方（案）

- 気候変動に伴う降雨量の増大が想定されるなか、命の安全・最低限の避難生活水準を確保できる「高台まちづくり」の推進が、これまで以上に重要となっている。
- 効果的な整備を行うため、高台の不足状況の見える化を行い、具体的な対策メニュー等を議論し、高台まちづくりの整備方針（面的な計画）の検討を進める。

## 《高台の不足箇所（避難の観点のイメージ）》



イメージ図※2

- 東京東部地域には、海面水位よりも低い、いわゆる「ゼロメートル地帯」が広範囲に広がり、ひとたび大水害が発生すると広範囲で長期間の浸水が想定されることから、高台整備が必要。
- このため、避難の観点（高台への収容可能人数や避難対象者数）から、高台が相対的に不足する箇所の見える化※1を実施。
- さらに地域の状況を踏まえ、建築物等（建物群）、公園等の公共施設、高規格堤防による高台まちづくりの整備方針について検討を行う。

※1 高台の不足箇所を把握するため、避難対象者数が最大の場合を想定（広域避難等を考慮していない）

※2 図は、現在、検討中のものであり、今後詳細検討を実施

## □高台の不足箇所整理フロー

- ①浸水深、浸水継続時間等から避難対象者数を算出
- ②高台への収容可能人数と避難対象者数から不足箇所状況を整理

⇒ 東部低地帯において高台が相対的に不足し、高台整備の緊要性の高い箇所を抽出

## □高台まちづくりの整備方針検討

高台不足状況の見える化を踏まえ、整備方針を検討

